

平成15年度 日本OP協会臨時総会

- 日 時： 平成15年9月21日（日）14：00～18：00
会 場： 夢の島マリナー 会議
- 会長・理事・監事出席者： 副会長 占部、
理事長 国見、
副理事長 中川
理 事 東、市野、檜皮、佐藤、渡辺
監 事 赤津、周藤 以上 8名
- 評議員出席者： 野村（横浜市民）、酒井（KMC）、室松（葉山B）、木内（江の島）
赤津（横浜Jr）、中村（湘南）、中川（横浜Jr）、占部（福岡）、
檜皮（広島）、小宮（江の島）、長掘（中央）、渡辺（夢の島）、原田（江
の島：江の島有馬評議員より委任）
以上 13名
- 決議権行使書： 10名
委任状： 15名
- オブザーバー出席者： 坂上（江の島）、相田（中央）、坂田（KMC）
4名
- 臨時総会開会宣言： 14：10に協会中川（事務局）より臨時総会の開催が宣言
される。
- 臨時総会成立条件： 協会規約第21条により、評議委員参加者12名委任者25名
で総評議員数48名の過半数を超えている為、臨時総会は成立
する旨の報告が市野（事務局）からあった。
- 議 長 選 出： 会長不在の為占部（副会長）を選出・承認され、議案の審議に
入る。
- 議 事 録 作 成： 議長の指名により議事録作成を佐藤（理事）に、議事録署名人
を原田（江の島）様にお願ひし承認された。
- 議 題： 1、理事会への信任、不信任の審議
2、その他
ア、平成15年度開催の全日本日程について
イ、海外派遣、強化について
ウ、海外派遣の問題について
- 国見（理事長）より： 臨時総会開催までの経緯説明があった（H15.9.16 説明文参照）
また、前日に協会理事会を開催し、そのなかで赤津監事より
臨時総会での理事会の信任、不信任の決議は協会規約に
存在しないと指摘をうけ、今回開催の臨時総会の審議は、今ま

での協会での決定事項の説明と確認を行うこと、事業内容についての承認。また、会員のご意見を頂く場にしたいとの説明があった。

赤津監事より： 規約の説明があり、総会での理事会に対する信任、不信任の決議を行わない理由を述べた。

前項の意見、説明により

木内（江の島）様より：平成15年9月10日江の島ジュニアヨットクラブより提出した動議書は無意味になるのか又、その場合議題は何になるのか質問があった。

国見（理事長）より：協会理事会での決定事項の説明、確認を行い、質疑の場にしたいとの回答があった。

木内（江の島）様より：江の島ジュニアヨットクラブより提出の動議書に項目5について、臨時総会欠席のため委任状を出されたものが有効であるか、確認の質問があった。

赤津監事より：動議書1～4については事前書面での説明は成されているがとくに4については公開し、告知することが必要であると説明があった。会員に情報を周知するためにJODAのホームページの議事録に、選考問題を理事会で審議された資料を添付して欲しいと意見があった。

又、5について委任状による臨時総会開催は有効であるが、信任、不信任の項目については、議題とはならないので無効と解釈されると説明があった。

木内（江の島）様より：江の島ジュニアヨットクラブ提案の主旨が満足されていると判断し、提出していた動議書を取下げの旨発言があった。

議長（占部）より：議題2その他アについて審議指定があり

国見（理事長）より：経緯説明文1についての説明があった

又、日程の10月の学校行事、試験等の調査を行なうなど日程調整をした。具体的に調査は、各理事に付近の学校の試験日の調査を依頼すると共に理事長も神奈川県教育委員会、横浜、川崎、の市教育員会に連絡し公立学校の試験日程の確認を行なった。荒川理事、占部福会長が名古屋、福岡の各市教育委員会にも連絡して日程を確認し、その結果ほぼ全国的に10月20日位までには中間試験が終了しているとの結論を得た。

また、11月3日（文化の日）は学園祭等の行事が多く行なわれる為、教育委員会をしては11月3日にかかる大会はあまり

好ましくないとの意見も付加された。しかし、私立中学校についてはすべてを調査するのは不可能であり、数校の調査にとどまった。結果的に会員の一部が参加できないような日程になったことの説明があった。

小宮（江の島）様より：日程の確定する為の調査方法に無理があり今後日程調査は
酒井（KMC）様より：各登録クラブからの報告も考慮し日程の決定をしてほしい
趣旨の要望があった

又、どんな問題が発生するかとの質問があった。

国見（理事長）より：協会として調査方法を検討し日程を決定したいと説明があった。

その中で、すべての参加者が学校行事にかからない日程の調整は非常に難しい。日程の調査を各クラブに依頼すると140名の参加者に対し仮に2～3名がなんらかしらの学校行事と重なることがわかった場合に137対3だからといって3を無視することが出来なくなる。すべてに平等にする為には非常に難しいが課題として努力して行くとの説明があった。

占部（副会長）より：学校行事調査の補足があつた。福岡の教育委員会では公立中学の2学期の中間試験は10月中旬に終了するように指導しており全国的にどこも同じような指導をされていると聞かされた。5月の理事会において一部私立中学校にて中間試験が重なっている可能性が認識されたため、全日本の日程について最終調整を行なったが、福岡県連との調整では、オリンピックウイークの一週間後のOP全日本の単独開催は難しいとの結論になった。

長堀（中央）様より：JSAF内部でも説明と違う発言をされている方もいると聞いている。協会の決定事項順位が曖昧ではないかとの意見があった。

又、

- 1、月日の決定が遅かった（10月か11月の）
- 2、日程、場所等の決定が遅かった（優先はどちらか）
どちらなのか質問があった。従来の11月開催はベストではないが、ベターな時期であったと考える。今後は日程を優先して貰いたいとのご意見があった。

占部（副会長）より：全日本の場所を決める際に、場所の選定に苦勞している現状では、日程の優先は簡単ではない。

国見（理事長）より：補足説明として、全日本の開催地は、ここ数年開催地が進んで引き受けたいと手を挙げるケースより何とかOP協会が開催

地をお願いして全日本を開催してもらっているのが現状である。特にOPの全日本は事前準備や運営に大変なご苦勞を掛けるので、候補地がなかなか決まらない事がある。

赤津（横浜 Jr）より： 当クラブ（横浜 Jr）の会員にも私立に通っている選手が多く、日程の変更が問題ではなく、学業とスポーツをどう両立するかが問題になっているのではとの意見があった。現在の状態を見ていると親子共々、限界に近い状態ではないだろうか。

国見（理事長）より： 全日本日程については、通年の11月初旬の考えはあるがお願いするクラブ、県連等の行事調整を行なって、課題の一つとして努力するとの説明があった。

占部（副会長）より： 次回のオリンピックウィークとの同時開催の話があるが、開催はよしとしても日程の調整を十分協議したいと説明があった。

原田（江の島）様： オリンピックウィークとの同時開催は、高いレベルにあるOPのレースと一緒にやりたいという主催者側の思惑は無いのか

国見（理事長）より： オリンピックウィークの一環として行うとしても、OPだけ別のスケジュールで開催することも視野に入れて考えていく。

長堀（中央）より： 次回全日本の日程は11月初旬に行なってほしいと提案があった。

中村（湘南）より： 協会行事日程をもう少し早くお願いしたいとの要望があった。

国見（理事長）より： 理事会においても早期日程の検討、選手枠、クラブ推薦枠等色々な対処方法を検討して行きたいと説明があった。

原田（江の島）様

酒井（KMC）様より： 次回全日本は、日程を優先で検討のお願いがある
又、通年からの大幅な変更は会員の動揺があり検討課題ではとのご意見があった。

議長（占部）より： 議題2その他イについての審議指定があり

国見（理事長）より： 経緯説明文2について説明があった。

又、現在の選考会の日程、方法について現在の方法で良いか、海外派遣選手強化合宿についての質疑を貰いたいと提案があった。

赤津（監事）より： 第3回理事会で派遣選手選考方法が決定事項と思われる議事録記載があるとの指摘があった。

国見（理事長）より： 決定事項ではなく、色々な案を出し合い何が親の負担、海外レ

ースでの成績に繋がるかを考え強化合宿も含め提案したとの説明がある。

木内（江の島）様より：協会提案の選考、強化合宿等の方法について白紙に戻す様提案があった。又、江の島ジュニアヨットクラブは、第3回理事会で提案された派遣選手選考方法については、反対であると発言があった。

国見（理事長）より：この場での白紙撤回はできないが、理事会の討議議題にしたいとの説明があった。

協会が選考方法の変更をする場合は、年次総会の席で会員に対して提案し、変更の承認を得ると説明があった

木内（江の島）様より：エリアコーチマネージャーの選出方法について又、エリヤコ
酒井（KMC）様より：コーチマネージャーの定義、資格について質問があった。

国見（理事長）より：コーチマネージャーの内容については協会内部の人間ではなく
コーチの経験と実績のある方、或いはジュニアヨットに対して造詣の深い識者で組織し、各地の問題の情報交換、検討課題の討議、方向性の検討などを行ない、協会に対しアシストをして貰う組織であると説明があった。

赤津（監事）より：エリアコーチマネージャーが意思決定組織、地域代表組織では
困るし、発展はしないのではとの意見があった。

国見（理事長）より：地域担当者であり意思決定組織ではないと説明がある。

原田（江の島）様より：他の出席クラブからもいろいろ意見を聞きたいと提案がある。

長堀（中央）様より：情報伝達が協会と会員の間でうまく伝わっていないのでは
との質問があった

酒井（KMC）様より：案の提出は良いことだが大きな変更は早めに提案説明を
行なってもらいたい。また、会員が納得していない大きな変更は元に戻しても良いのではないかと提案があった。

国見（理事長）より：方向性を説明し提案を素早く伝達していくよう努力をしていく
と説明があった。

長堀（中央）様より：広報をどのように行なっているのか質問がある。

国見（理事長）より：色々な方法で行なっているが、再度確認の不備がありチェック
していくと説明があった。

議長（占部）より：議題その他ウについて審議指定があり

国見（理事長）より：海外派遣問題について経過説明文3について説明がある
特に今回の北米選手権等派遣問題（選考問題）に関して

決定から派遣までの時間的な問題も含め、短期間での決定は止むを得なかった。今後は、十分に事態を把握し派遣を行なう方針であると説明があった。

小宮（江の島）様より：2003年の北米派遣について、メキシコのOP協会会長との話は、メキシコ側からの参加依頼であり、日本からの依頼ではなかったと説明があった。また、2002年の小宮北米監督に対する理事会の誤認に対する、正式な謝罪は受け取っていないとの発言があった。

赤津（横浜 Jr）様より：今回の臨時総会での採決について以下の提案があった。臨時総会の内容が現在までの提案並び経過報告及び質疑の臨時総会である為協会活動報告に対する承認、不承認を採決したい。

議長（占部）より：今回問題となった協会活動の経過報告に対して拍手にて承認をいただきたいと提案がある。

全会拍手で承認した。

以上をもって、臨時総会の終了を

議長が宣言し臨時総会を終了した。

開 会 14：10 閉 会 17：30 以上

議事録作成者 日本OP協会理事
佐藤 勝也

議事録署名人 江の島 J Y C
原田 浩二